いぬときつねの旅　　岩手県

あるとき、いぬときつねが、いっしょに旅に出ました。歩きながら、きつねは、
「おれは、千里先のことも占えるし、二千里先のことも分かるんだぞ」と自慢しました。
いぬが、
「ふうん。そうかい」と感心すると、きつねは、
「そうだぞ。それに、おれは人間をだますことができるけど、おまえは人間のいうことをきくばっかりだ。だいいち、おれは神さまなんだ」といいました。
しばらく行くと、深い谷川があって、一本橋がかかっていました。きつねは、
「こら、いぬ。おまえが先に渡れ」といいました。いぬは、
「いや、神さまが先に渡らなくちゃ。とてももったいなくて、あんたの先には渡れないよ」といいました。二匹はいい争っていましたが、しまいにきつねが恐ごわ先に渡りました。いぬは後からついて行きました。
ちょうど橋のまんなかまで来たとき、いぬが、大きな声で、ワンとほえました。きつねはびっくりしてとび上がり、川にざんぶり落ちてしまいました。
いぬは、笑って、
「なんだ、神さま。あんたはさっき、千里先も占えるし二千里先のことも分かるといったけど、一寸先のことも分からないじゃないか」といいましたとさ。

原話：『老媼夜譚』佐々木喜善
再話：村上郁